



小林清治の蔵書印

県立図書館ではこのたび、県史をはじめ数多くの県内市町村史編纂に携われ、本県の歴史学に大きな足跡を残された、故小林清治氏（福島大学名誉教授）のご遺族、澁子夫人より蔵書の一部を寄贈いただき、現在、整理作業を進めている。

寄贈資料は、『猪苗代町史』自然・民俗・歴史編(1977-82年)、『福島県農業史』(庄司吉之助/著 1948年)、『本荘市史』通史・史料編(1984-2000年)、『仙台郷土誌』(仙台市教育会/編 1933年)、『北奥地域史の研究』(長谷川成一/編 名著出版 1988年)、『日本史研究』(バックナンバー290冊)等々、県内外の県史、市町村史、東北地方の中世・近世に関する歴史書・研究書、専門誌を中心に約2,500冊に上る。これらの資料は、多くの人々に広く利用してもらうことが氏のご意向であったことを受け、文庫という形をとらず当館蔵書の中に組み入れられることとなった。

氏は、1924(大正13)年、北海道旭川市生まれ。軍隊から復員後、京都帝国大学から東北帝国大学(東北大学)に転学、国史を専攻する。「回顧四十年」(『福大史学』46・47合併号 1989年)では当時の心の在りようを「死をまぬがれて大学に復学できた私が直面したのは、当然ながら、真実とは何か、日本の旧体制の本質とは何かという問題であった。・・・否応なしに、戦前日本の勉強に向かわざるをえない。それも具体的な事実をふまえて納得的に進めねばならぬということに思い至らざるをえなかった。」と記されている。

同大大学院で近世史を研究するとともに『仙台市史』の編纂に6年間携わり、1954(昭和29)年、福島大学に赴任。以後教育学部教授、教育学部長、学部増設準備室長を歴任され、1989(平成元年)年、定年退官。1996(平成8)年、福島県文化功労者表彰、2004(平成16)年、河北文化賞を受賞された。2007(平成19)年4月逝去。

主な著作は、『伊達政宗』(吉川弘文館 1959年)、『秀吉権力の形成 書札礼・禁制・城郭政策』(東京大学出版会 1994年)、『奥羽仕置と豊臣政権』(吉川弘文館 2003年)、没後の2008年には『伊達政宗の研究』(吉川弘文館)、『戦国大名伊達氏の研究』(高志書院)の2冊が刊行された。

氏の歩まれた道のりは、前述の「回顧四十年」と『奥羽小径 年譜・著者目録』(小林清治/著 2004年)に詳述されている。

氏は生前、蔵書印を使われなかったが、上掲は、当館が寄贈資料に押印のため、今回澁子夫人が作られたものの印影である。篆刻の線の流れが美しい2cm 四方の朱印である。

寄贈資料が当館の歴史学分野の更なる充実に繋がり、寄贈へ心を尽くしていただいた澁子夫人はじめ、お力添えをいただいた渡部正俊、伊藤喜良、高橋明各先生方に感謝申し上げたい。

地域資料チーム：丹野律子